

令和4年度第一学期終業式式辞

皆さん、おはようございます。校長の川崎芳徳です。

1学期の最終日にあたり、一言あいさつを述べさせていただきます。

皆さんどんな1学期だったでしょうか？

4月8日の始業式…ここでは、2・3年生だけでしたが、年度初めということで、「旅人の話」などを中心にさせていただきました。良いクラスをつくることができましたでしょうか。新しい友達もできましたか。

同日の午後には入学式があり、40回生、1年生には、「高校生活を楽しんでください。皆さんの秘めた能力は、自ら意欲的に取り組み、楽しめたときに、最高のパフォーマンスを発揮します。抑圧され、強制される環境下での成長には限界があるのです。誰にも遠慮することなく、大きく飛躍、突き抜けていってください。可能性は無限です。」といったお話をさせていただきました。どうでしたか。楽しみながら、力を発揮することができましたでしょうか。

さて、1学期には、いろいろなことがありましたね。まだ少し緊張感がある中での1年生の「オリエンテーション合宿」、2年生は「学年企画行事」で京都へ、3年生は、1月から4月、そして7月へ再延期となり、ようやく実現した「修学旅行」…修学旅行、楽しかったですね。とりわけ、劇団四季のアラジン、感動でしたね。主役のアラジンもさることながら、ジーニーの演技力、ジャスミンの可愛さ美しさ、最高でしたね！未だにあの空飛ぶじゅうたんの仕掛けがわかりません。分かった人がいたら教えてください。

そして、文化部の素晴らしい発表と、全校生のエネルギーがみなぎった文化祭、盛り上がった球技大会、第2回を全勝で終えた須磨東高校との交流戦、部活動では、昨日も壮行会を行いました。またまだ近畿大会、全国大会を控えている人も多い高校総体、ダンス部も全力応援してくれた高等学校野球選手権大会などなど…

高校総体では、女子バスケットボール部が、尼崎西高校を1点差で破りベスト32を決めた試合、そして、芦屋学園高校を破りベスト16を決めた試合、この2試合は、残り時間わずかな状況下、奇跡と言っても決して過言ではない勝ち方を見せてくれました。また、野球部の2回戦、高砂高校との試合も、9回2アウトランナー無しからの奇跡の逆転、3回戦、神戸科学技術高校との試合でも、延長11回、2アウトランナー無しから同点に追いつきました…

これらに関する共通点は、「できる、できる、やってみせる！」という皆の魂の叫び、そして、敗北寸前の状況下でありながら、選手・ベンチから聞えてくる声は、「まだ終わってない、ここからや、逆転するぞ！」といった、応援席まで聞える大きくポジティブな声…そして、本当に追いつき、ついには逆転！…多くの人が感動しました。校長として、誇らしい限りです。

しかし、これは、決してたまたまや偶然の出来事ではありません。例えば、大学入試を終えた生徒からも時々耳にします…「先生、たまたま解いたことがあった問題が出てん！ラッキーやったわ」…でも、これも、良い結果を夢見て求め続け、努力を続けた結果、天から梯子が降りてきたものなのです。奇跡とも言える結果も、日頃の確かな練習の積み重ねがあったからこそ引き寄せることができたものであります。

どうか皆さん、これからも、目指す自分自身をイメージし、強く念じながら、地道な準備を積み上げていってください。

とりわけ、ここ数年間は、皆さんの長い人生において重要です。後悔するような妥協はせず、追い求め続けてください。実現しないのは、追い求めることを止めた時に他ならないのです。「できる、できる、やってみせる！」の精神を持ち続けてください。

1学期には、もう一つ大きな出来事がありましたね…7月8日からスタートした、登下校での私服併用、皆さんいかがでしょうか。私から見ていますと、非常に自然体で違和感なく、一人一人、うまく取り入れているように感じています。これまで男子制服、女子制服と呼んでいた、タイプA・タイプBの制服とともに、自由に着こなしてください。一斉の衣替えもなくなりました。日本の四季に対応しながらスマートに過ごしてください。

皆さんに意識していただきたいのは、一校だけで効力を持つ「校則」ではなく、人々が力を合わせて創り上げ、協力し健全に維持している、この社会の約束・ルール、そして、真のマナーであります。従って、めざすは「校則なし」の状況であり、もし、示すのであれば、「18歳成人を念頭に、社会に開かれるべき学校において、社会のルール、マナーに則って秩序を維持し、心身ともに健康な集団生活をおくること」といった一文のみであろうと考えています。

集団での効果的な教育活動が脅かされるとき、特殊なルールを考え、対応していく必要があるものであり、今の須磨友が丘の現状は、そうではないと思っています。

このあたりも、2学期以降、これまで頑張ってきてくれました、山下会長を筆頭とした旧生徒会執行部の皆さんの後を引き継いだ、大久保新会長を中心とした新生徒会執行部の皆さんを中心に、生徒指導部の先生方と研究・協議いただければと考えています。

須磨友が丘高等学校は、皆さんが入学し学び卒業する、生涯、母校となる学校であります。我が国の進むべき方向を考えて、選挙で一票を投じる民主主義…同様に、皆さんが、ここ須磨友が丘高等学校を、どのような学校にしていきたいのか、まずは、皆の意志が大切なのです。

さらに、未だに終息を見ないコロナ禍、ロシアのウクライナ侵攻、安倍元首相が銃撃され、亡くなられる大事件まで発生…この、変化激しく予測困難なグローバル社会を、心豊かにたくましく生き抜いていくために、総合学科の学びの中で、「総合的人間力」を獲得していただきたいと心から願っています。知らない誰かにどこかで決められたことを、ただ守り、無難にこなしているだけでは、立ち行かなくなるのです。物事を深く考えることをせずに現状に留まるのではなく、「知・考・行」…生徒会を中心に、須磨友が丘の更なる発展・飛躍、ひいては皆さんの自己実現、輝ける未来に向かい、知恵を出し合い熟考し、行動し続けていただきたいと思っています。

さてさて、夏休みですので、是非、何か夏休みにしかできないことに取り組んでください。もちろん、学力向上、部活動での実力アップ、習い事を極めていく…これらは忘れないでくださいね。夏休みは大きなチャンスです。一日一日、積み上げていってください。秋には、その成果が必ず出てくることは、多くの先輩方が既に実証済みです。

そんな中、忙しい中ではありますが、1冊でいいです、何か、興味のある本を手にしてください。本は、時を越え、国境を越え、生まれていなかった時代のこと、会ったこともない人の考え、歴史に名を刻んだ人の生き様などなど、様々なことに触れることができます。考えてみてください。人間以外の動物では、世代を越えて伝承できる情報は遺伝情報のみです。人類だけは、大量の情報を、文字情報や言語情報として伝えていくことを可能としました。人類のみが獲得した、一つの遺伝の形式であるとも言えるでしょう。この恩恵にあやからない手はないでしょう。何か1冊、手にしてください。その1冊との出会いが人生を変えるかも知れません。

また、県内外へ旅行したり、ご両親の故郷などへ行かれる人もおられることでしょう。日常とは違う地の空気をしっかり吸って、さらに感性を磨いてください。私事ですが、今年は、3年前に他界した父と母の故郷、長崎県の五島列島…佐世保市からフェリーで2時間35分、人を近づけない地へ、久しぶりに帰り、自らのルーツの空気を吸ってくる予定です。

最後にもう一点、夏休み中には、大切な、亡き人の霊を迎え供養する行事に参加される人もいることと思います。そのような時間を過ごされるようなことがありましたら、心静かに、亡き大切な人と対話し、自らを振り返り、これからの在り方を心に誓う時間としてください。

そして、確認いただきたいのは、一番大切なものは「命」であるということ。先祖代々、途切れることなく脈々と続き、ご両親からいただいた「命」、そして、毎日、動植物の確かな「命」をいただくことではじめて、維持できている「命」…私たちの「命」は、既に自分だけのものではないということ…感謝の気持ちを忘れず可能な限り生き抜く中で、世のため人のために少しでも貢献し、恩返しをしていかなければいけないのではないのでしょうか。

最大の親不孝は、親よりも先に、この「命」を失うことです…もし、何か悩ましいことがあれば、無理に一人で抱え込まず相談してください。忘れないでください。皆さんは、決して独りではありません。

夏休みにしかできないこと、まだまだ、いろいろあることでしょう。どうか皆さん、明日からの42日間、充実した、そして楽しいと感じることができる時間を多くつくってください。

9月1日、一回り成長した元気な皆さんと再会できますことを楽しみにしています。

以上、令和4年度第一学期終業式の「式辞」とします。

令和4年7月20日

兵庫県立須磨友が丘高等学校

校長 川崎 芳徳